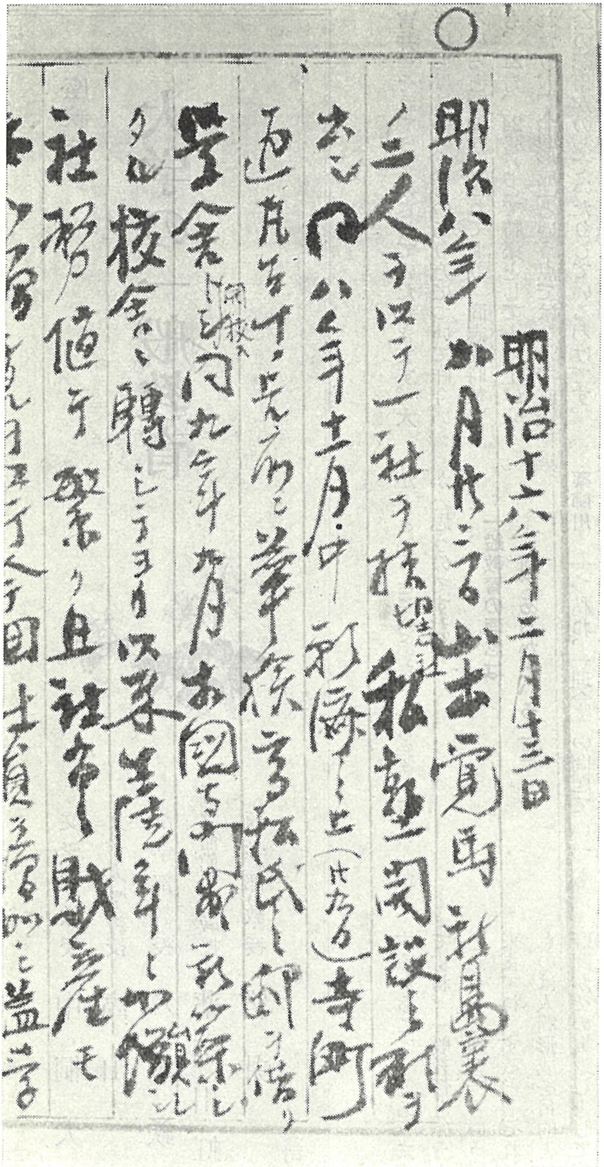
明治十六年二月十三日

同志社記事の一部―新島襄筆